

平成29年度 校内研究

研究推進委員会

I 研究テーマ

目指す児童像

『言葉を大切にし、自分の考えを豊かに表現する子』

研究テーマ

～話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり～

II テーマ設定について

昨年度は、「ことばを大切にし、自分の考えを豊かに表現する子」という児童の姿に迫るために研究テーマを「話し合う中で新しく考えたことを表現する授業づくり」として取り組んできた。一人学びで「ことば」に着目して読み、自分の考えをもち、みんな学びで新たな発見をし、自分の思いを表現する児童の姿が多く見られるようになった。しかし、一人学びで考えたこと、みんな学びで気付いたことを出し合うことはできても、話し合う中で新しく考えたことを伝え合い、練り合うことはまだまだ難しい。一人一人が思いや考えをもち、言葉で互いに表現し合い、深められる確かな学びの場で、みんなで学ぶ中ことにより、新たな発見をし、思考が深まり、学ぶ楽しさ、達成感・満足感を実感する。そして、学ぼうとする次への意欲を高めることにつながると考える。また、望ましい話し言葉、書き言葉を通して、児童相互間の意志疎通を図ることも大切であることに変わりない。そこで、本年度のテーマは昨年と引き続き、「話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり」とし、国語の授業研究を中心に研究を進めることとする。

III 研究の経緯

平成24年度

- 一人一人の表現力を高め、自分の考えをことばで伝えることに重点をおいた国語の授業研究
 - *おはようタイムにおいて暗唱・朗読活動を全行的に活発に行う。
 - *「根拠」と「考え」を明らかにさせる発言話型を提示し、授業で活用する。

平成25年度

- 一人一人の表現力を高め、自分の考えをことばで伝えることに重点をおいた国語の授業研究
 - *「具象化する」「比較する」「関連付ける」「意味付ける」という「4つの思考操作」で児童の考え方を支援する。
 - *「おはようタイム」を活用して5つの力を日常的に使わせていく。
 - *学んだ内容を掲示していき、児童にも認識させていく。

平成26年度

- 一人一人の表現力を高め、自分の考えをことばで伝えることに重点をおいた国語の授業研究
 - *45分の話し合いの中で児童が変容するように、広げる発問と深める発問、まとめさせる発問を意識して授業を展開する。
 - *「一人学び」「思考操作」「学び納め」といった、長年の研究の蓄積を十分に活用する。

平成27年度

- 一人一人の表現力を高め、自分の考えをことばで伝えることに重点をおいた国語の授業研究
 - *新しく考えたことを表現する授業づくり

平成28年度

- 一人一人の表現力を高め、自分の考えをことばで伝えることに重点をおいた国語の授業研究
 - *話し合う中で、新しく考えたことを表現する授業づくり

平成28年度は、平成27年度に続き目指す児童像の実現に向けて、国語科において「話し合い」に焦点をあて、児童の思いや考えを集団で練り合う場、高め合う場を中心に授業研究を進めてきた。「一人学び」で自分が読み取ったことを「みんな学び」の場を出し合い、そこで新たに気付いたことを出し合い練り合うことに焦点を当て研究を進めた。6学年・1学年・4学年の全体授業研究会では、意図的な単元構成で児童も見通しをもって学習を進め、一次で読解の素地が整えられていた。また、切り返し発問により、思考を深める場面を意図的に仕組むことで、課題について集中して考え、話し合いの中で新たに発見した自分の考えを生き生きと表現する児童の姿が多く見られた。教師にとっては、様々な授業を見合うことで単元づくりや教師の適切な支援について考え、自分の力量を伸ばすことにおいて意義のある研究となった。特に、付箋紙を使い発話記録を基に全員で具体的事実を語り合った全体授業事後研究会は、どの教師も自分の「みえ方」を交流し合い、刺激を受けたり、新たな発想や視点を発見できたりするよい機会となった。「言語環境部」においては、教室や校舎内の掲示、学級文庫の充実などを中心に話し合い、取り組んできた。なお、今後は、図書室の活用の充実にも努めていきたいと思っている。また、教室に基本的な話型を掲示することにより、児童が意識して話すようになり、「児童作品の掲示板」や「階段側面の掲示」は、身近な表現方法や「言葉」にふれる場となっている。また、全学年で「学び納め」として、一年間の学習内容を確認した。児童が学習内容を確認するとともに、指導する教師も指導事項の系統を確認することができた。「言語活動部」では、「おはようタイム」の取組を中心に暗唱や放送音読、書く活動、話す活動など各学年に応じた取組を行ってきた。

IV 本年度の研究

1 児童の実態

昨年度までの取組の成果として、みんなの前で積極的に表現しようとする児童の姿が多く見られるようになった。しかし、自分の考えをもてない、どう表したらよいかわからない、という児童もおり、意欲的に自己を表現しようとする児童がややもすれば学級の中で偏りがちであり、表現力を高めるための互いに関わり合う力はまだまだ弱い。課題として次の4点が挙げられる。

- 子どもたちが言語化したくなる（話し合いたくなる）ような単元展開
- 一人読みのできる子＝主体的に学習する姿
- 一人学び発表会からの脱却
- 子どもたちが互いに練り合い思考を深める教師の効果的な発問など

子どもの実態をもとに学習指導要領を読み直すとき、子どもたちに「言葉の力」をどのように付けていくのか、また、子どもたちの言語生活の中で、思いや考えを表すのにどのような言葉を選んで表現すればよいかを自分の言葉で考え、自分の思いをもつ子をどのように育てるかという研究を積み重ねる必要があると感じる。また、次期学習指導要領では、児童が課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法などを充実させていく必要があり、授業改善が望まれている。そこで、本年度も、目指す児童像を「言葉を大切にし、自分の考えを豊かに表現する子」とし、「話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり」の充実を図りたいと考えた。

以上の述べたことをまとめると「研究の構想図」（図1）になる。

2 研究の構想図
(図1)

学校教育目標
 自他を大切にし、たくましく生き、
 ふるさと二見に愛着と誇りを持つ子の育成
 ～ 自分が好き、友だちも好き、地域も好きな子 ～

目指す児童像：ことばを大切にし、自分の考えを豊かに表現する子

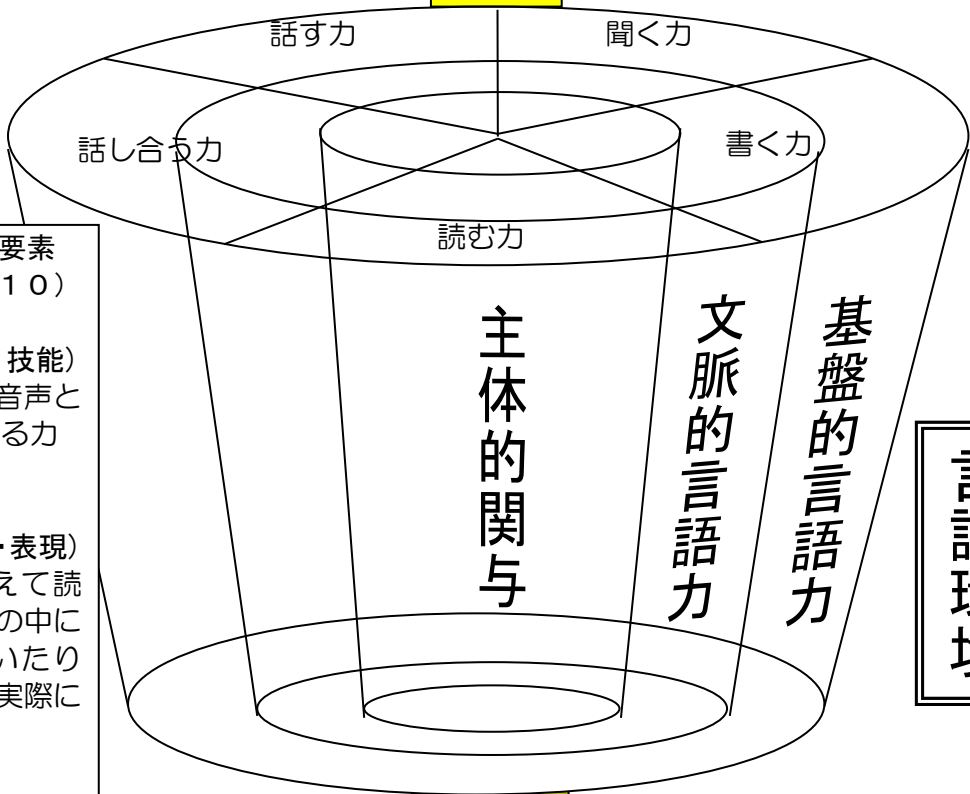
研究主題：話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり

国語の学力 3つの要素
 (森山卓郎 2010)

① 基盤的言語力
 (≒知識・技能)
 文字・語彙・文法・音声と
 いった言葉の基盤となる力

② 文脈的言語力
 (≒思考・判断・表現)
 文脈の関わりを考えて読
 んだり聞いたり、文脈の中
 に位置付けて何かを書いたり
 話したりして、言葉を実際
 に活用していく力

③ 主体的関与
 (≒関心・意欲・態度)
 自分なりの発想や予想を
 もち、理解したことについて
 自分なりに思いを深めたり
 するなど、主体として言葉
 や内容に関わっていく力



言語環境

支え合う学級集団づくり

- ・ 子どもの実態から
- ・ これまでの研究の流れから
- ・ 新しい国語科の動向から

3 重点取組

(1) 一人一人の表現力を高め、学びを深めることに重点をおいた国語科の授業研究・単元づくり

「話し合い」に焦点をあてて取り組む。

- ・ 授業場面で、小グループでの話し合いや全体での話し合いの場面を設定する。自分が読み取ったことや課題についての自分の思いや考えを出すとともに相手の思いをしっかり受けとめ、質問したり、その意見について自分の考えを話したりしながら新たな発見をし、自分の考えを見直し深まっていく経験を積み上げていく。

○付けたい力を明確にし、児童が主体的に取り組める意図的な単元づくり・・・図2-①

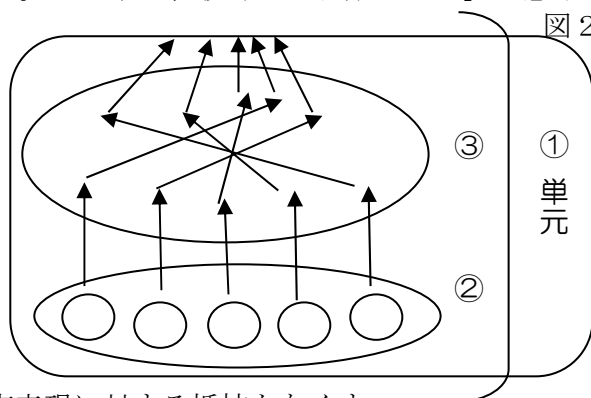
- ・ 付けたい力を明確にし、「児童が、自分の思いを言語化しなくなる（話したい、書きたいと思う）場とするため」の単元づくりを考えていく。

○「わたしなり」の考えをつくる場の設定＝一人学び・・・図2-②

- ・ 「話し合い」をするためには、まず、自分の思いをもたなければならない。国語科では、教材文と出会ったとき、自分の読みをもつことが大切である。読みの段階で、自分なりに感じたことをつかめていないと、集団で交流しても自分の思いを出すことができない。しかし、一人学びの方法を知らなければ一人で読み自分の思いを生み出すことはできない。授業の中で「一人学び」の方法を知らせ、「一人学び」の場を保証することで、自分の思いを生み出していく時間を確保する。また、学習の手引きやワークシート、学習の足跡の掲示など子どもたちが自分の考え（読み）をもつことができるような支援を考えていく。

○仲間と交流し、深め合う場の設定＝みんな学びと教師の支援・・・図2-③

- ・ 1時間の授業の中で、「わたしなり」の考え（読み）をもち、それを交流させる場（話し合い）を設定する。本年度研究の重点取組「話し合い」の場である。全員の考えを交流する場であり、単なる発表会になってはいけな。その中で、教師が「授業のヤマ」を意識し、児童の思考を深める契機として意図的にゆさぶりをかける。「評価言」「発問」「板書」など個々の教師が身に付けておかなければならない専門的な力量である。今までも必要とされた「不易」の教師の授業力であるが、どのような「ゆさぶり」が児童の思考を深める契機となるか、実践を通して研修していく。



(2) 基礎学力・表現力向上のための取組

- 全教育活動で話し合い活動を強化する。
 - ・ 発声・音読・暗唱活動を活発にして、音声表現に対する抵抗をなくす。
 - ・ 話型をもとにした「根拠」「説明」「意見」をそろえて話すことの意識付けをする。
- おはようタイムを充実させる。
- 「家庭学習の手引き」「学習カード」を作成、保護者に配布し、家庭学習の習慣を付けるための協力を依頼する。
- 学習に継続性をもたせるために、既習事項を蓄積・掲示し、学び納めをして学年を上げる。

(3) 「豊かな表現」の手助けになる言語環境の充実

- 学級文庫を充実させる。
- 児童作品を掲示し全校生に広める。(児童作品掲示板)
- 「言葉・漢字」などに関する掲示を充実させる。

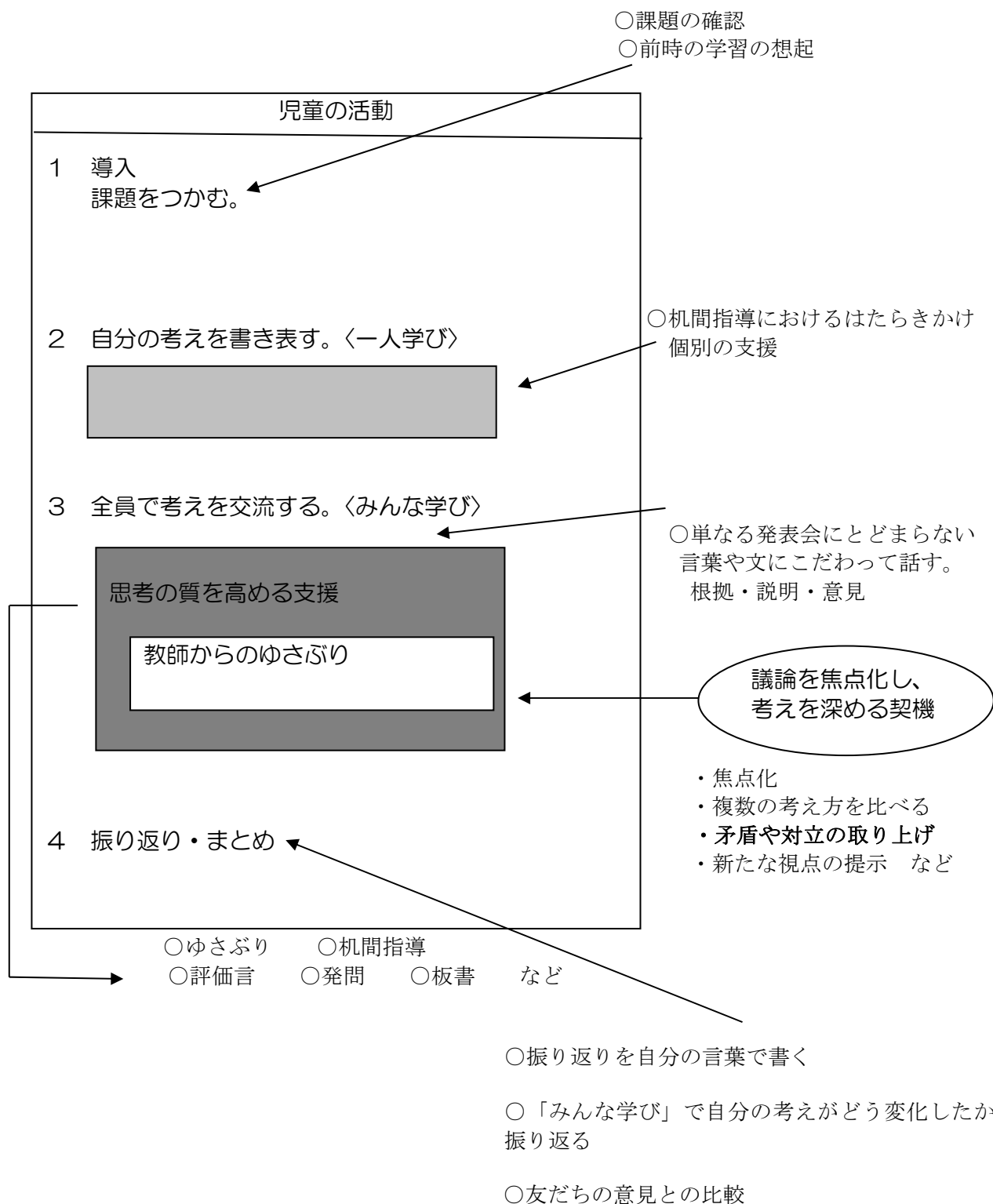
(4) 一人一人の存在を認め、安心してともに学び合える学級づくり・仲間づくり

- 児童の実態を把握し、子どもたちが安心して自分の思いや考えを出したり聞き合えたりできる学級づくり・仲間づくりのために、学年・学年層で情報交換をし、より充実した取組を進める。

4 学び合う単元

	時	学習活動	
一 見通しをもつ	1	<p>学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子ども追求したくなるような課題設定 ・見通しと学習計画「学習のゴール」の設定（目的の共有） 	見通しと意欲づけ どの子ども見通しがもてる課題設定 教師のモデル
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材と出会う ・音読 ・新出漢字練習 ・意味調べ ・初発の感想 ・あらすじをとらえる ・課題づくり など ・具体的なイメージをもつ 	一人学びの方法を知らせる 学習のてびき・教師のモデル
二 読み深める	1	<p>関係付けて読む。</p>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたし」なりの考えをつくる一人学び <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、書き込み、ノート ○仲間と交流し、深め合う <ul style="list-style-type: none"> ・～についての話し合い ペア・グループ・全体 ○「わたし」の考えを見つめ直す <ul style="list-style-type: none"> ・～を書き直す 自分の読みの修正や発見 	<p>机間指導におけるはたらきかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の考えの把握 ・つまずきへの対処・支援 <p>学びを深めるための意図的な「ゆさぶり」や「焦点化」など</p> <p>自らの変容（深まり）や成長を自覚させる</p>
三 表現する	1	<p>活用する</p>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたし」の考えをまとめる。 ○表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・台本を仕上げる。 ・本の帯作り ・パンフレット作り ・音読発表会 <p>二次までの学習を活かす など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 	<p>机間指導におけるはたらきかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の考えの把握 ・つまずきへの対処・支援 <p>自らの変容（深まり）や成長を自覚させる</p> <p>学習の方法・進め方などについても振り返らせる。</p>

5 基本的な学習過程（一単位時間）

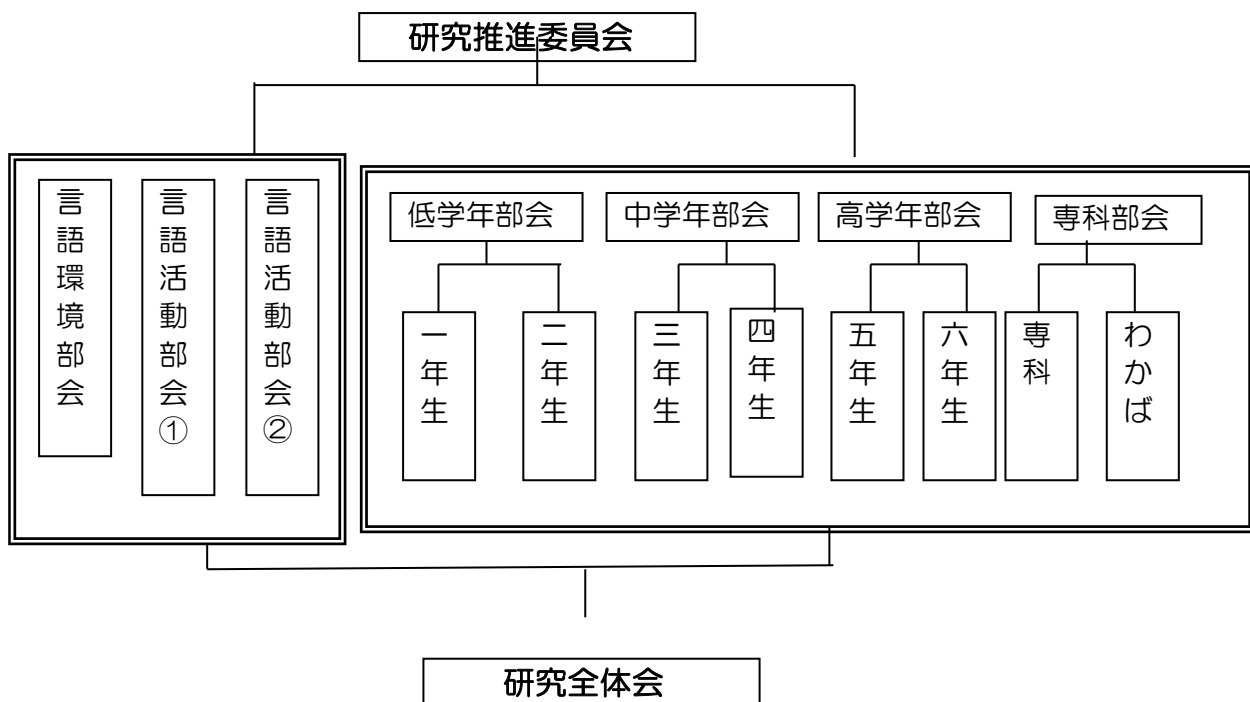


〈参考・引用文献〉

『『活用』の授業で鍛える国語学力』
～単元・本時デザインの具体的方法～（2014）

勝見健史著（文溪堂）

6 研究組織



* 部会別研究

言語環境部会

- ・教室掲示・・・話型掲示物の管理、重点指導内容の可視化
- ・思考を促す発展的な話型の実践交流
- ・校内の言語環境作り・・・児童作品・詩などの掲示（特に三次での表現作品）
- ・掲示物等ファイルの管理
- ・各学年の図書コーナーの整理・充実

言語活動部会 ①

- ・おはようタイムの活用・工夫・・・音読・発声の計画、資料の整備→読書・発声・暗唱
- ・音読集会・放送音読の企画・運営
- ・音読に関する全校的な取組

言語活動部会 ②

- ・おはようタイムの活用・工夫・・・内面の言語化→作文・スピーチ
- ・学習カードの作成・点検・月目標の検討、データの保管

※研究推進・・・加古（6年）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科 わかば
言語環境部会	倉成	平群	北良	後藤	内海	山中	○郷田 山田・徳留
言語活動部会①	広岡	大川	杉浦	卜田	○前田	大國	加藤・井場
言語活動部会②	穴田	○土田	竹重	内田	福本	上木	小松・谷

7 研究計画

校内研究会

○全体研、事前研、事後研、学年層研、学年研、各部会など

○授業研究は、全体研の授業公開を行い、「話し合い活動」に焦点をあて思考を深めるための指導・支援のあり方について交流し、授業力の向上を目指す。

＜具体的な取組について＞

- (1) 昨年度の成果をもとに、全員が公開授業を行う。
 - ① 全体研究授業は3つとする。全員参観とし、原則として研究会日程の中で事前・事後研究会を行う。事前研究会の前に学年層で事前研究会を設けてもよい。
 - ② 学年層研究授業は、①以外の学年で3つ行う。事前・事後研究会は、学年層で行う。日程については、授業者と研究推進委員会で調整する。
 - ③ ①②以外の方は、学年内公開授業とする。授業を行う日を決め、前日までに全員に指導案を配布する。他学年の参観は自由とするが、同学年は必ず参観する。(授業後すみやかに事後研または参観カード)

- (2) 公開授業の形態について
児童一人一人が思いや考えをもつこと、それを表現し合い思考を深めるための教師の支援について重点的に取り組む。完成した表現を見合う場面ではなく、一人一人が思いや考えをもつための場面をふくめ、「ペアでの話し合い」「全体の話し合い」など思いや考えを集団で練り合う場面、高め合う場面を中心に授業研究し、教師の指導・支援のあり方を中心に事後研を進めていきたいと考える。

- (3) 授業研究会の持ち方について
 - ① 全体研究授業の公開時間は、今年度に限り水曜日と限らない。
 - ② 全体研究授業の事前研究会・事後研究会は全体研究会で行う。その他は学年層部会か学年で行う。日程や会場、記録係は研究推進委員が中心となって決める。
 - ③ 指導案は、原則として授業公開日の前日までに全員配布する。ただし、全体授業研究会指導案は事前研究会の前日までに配布し、検討後修正して完成したものを講師に送付する。
 - ④ 全体研・学年層研は授業記録をとる。
 - ⑤ 事前・事後研究会の司会、記録は原則として研究推進委員が行う。
 - ⑥ 事前・事後研究会記録は、研究推進委員が「研推だより」にまとめ全員に配布する。
 - ⑦ 公開授業を参観後、参観カードを書き、授業者に渡す。
 - ⑧ 年度末、全体授業研究会・学年層授業研究会以外の指導案は冊子にのせないの
で各自で保管・整理しておく。

校内研修会

○ 特別支援教育、道徳教育など

- (1) 夏季研修会
 - ・研究や研修 及び 2学期以降の計画など
- (2) 先進校参観
- (3) 講師依頼
 - ・スーパーバイザー、兵庫教育大学講師派遣制度などの活用

(4) 年間研究・研修日程

	月	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
1 学 期	4月				26 全体研究会	
	5月	3 憲法記念日	10 職員会議	17 Fタイム (サークル) 研究会(3部会)	24(水)	31(水) 校区ユニット 相互参観(二見中)
	6月	7 全体事前研究会	14 職員会議	20(火) 全体授業研究会 中学年4年内田 指導助言 勝見先生	28 オープン スクール	
	7月	5 Fタイム (サークル)	12 職員会議	19		
夏季 休業中	夏季校内研修 校内研究					
2 学 期	9月	6 Fタイム (サークル)	13 職員会議	20 Fタイム (クラブ) 全体事前研究会	27 自然学校	
	10月	4 Fタイム (サークル)	11 職員会議	18 Fタイム (クラブ)	26(木) 全体授業研究会 低学年2年大川 指導助言 勝見先生	
	11月	1 Fタイム (サークル) 全体事前研究会	8 職員会議	15	20(月) 全体授業研究会 高学年6年山中 指導助言 勝見先生	29
	12月	6 Fタイム (サークル)	13 職員会議	20		
3 学 期	1月	10 Fタイム (サークル)	17 職員会議	24 Fタイム (クラブ)	31 研究会 (3部会)	
	2月	7 Fタイム (サークル)	14 職員会議	21 Fタイム (クラブ)	28 全体研究会 (まとめ) (学び納め交流会)	

学年層授業研究会

低学年層 1年 穴田

中学年層 3年 杉浦

高学年層 5年 前田